

## 道南太平洋海域スケトウダラニュース

令和2年度 第1号 2020年9月30日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

### 令和2年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（1次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2020年9月4日～9月10日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深100～500mの海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期を下回る。
- ・ 魚群反応の比較的強い海域は、様似沖及び鹿部沖。
- ・ 魚群反応の比較的強い深度は、水深350～400m付近。
- ・ 漁獲されたスケトウダラは、恵山沖の水深300m付近では尾叉長40cm前後の成魚、鹿部沖の水深350m付近では尾叉長45cm前後の成魚が主体であった。
- ・ 水温は、水深100～300mにかけて平年よりもやや高い。

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて観察されましたが、その中でも日高海域の157漁区（様似沖）、渡島海域の188漁区（鹿部沖）に比較的強い魚群反応がありました（図1・2）。
2. 渡島から胆振にかけての平均反応量は、前年同期を下回り、2018年度と同程度の値となりました（図3）。
3. 魚群反応は、主に水深150m以深に観察されました。その中でも水深350～400m付近に比較的強い反応がみられた他、水深250m付近にもやや強い反応がみられました（図2・4）。
4. トロール調査の結果、漁獲されたスケトウダラの体長組成は、恵山沖の水深300m付近では尾叉長40cm前後、鹿部沖の水深350m付近では尾叉長45cm前後の成魚が主体となっていました（図5；トロール地点は図1右上図参照）。
5. 調査海域の水温は、南茅部沖（Dライン沖観測点）および登別沖（Hライン沖観測点）ともに、水深100～300m付近にかけて平年（2002年度以降の平均値）よりも1～2℃高くなっていました。また、スケトウダラ成魚の生息に好適とされる5℃以下の水温は、両地点ともおよそ水深220m以深となっていました（図6；水温観測地点についても図1右上図参照）。

なお、今回の資源調査の結果は、漁期始め（10～11月）の状態を予測するために実施しているものです。12月以降の状況は、11月下旬に実施する分布調査（2次調査）により予測する予定です。調査終了後にスケトウダラニュースを発行して、来遊状況等をお知らせします

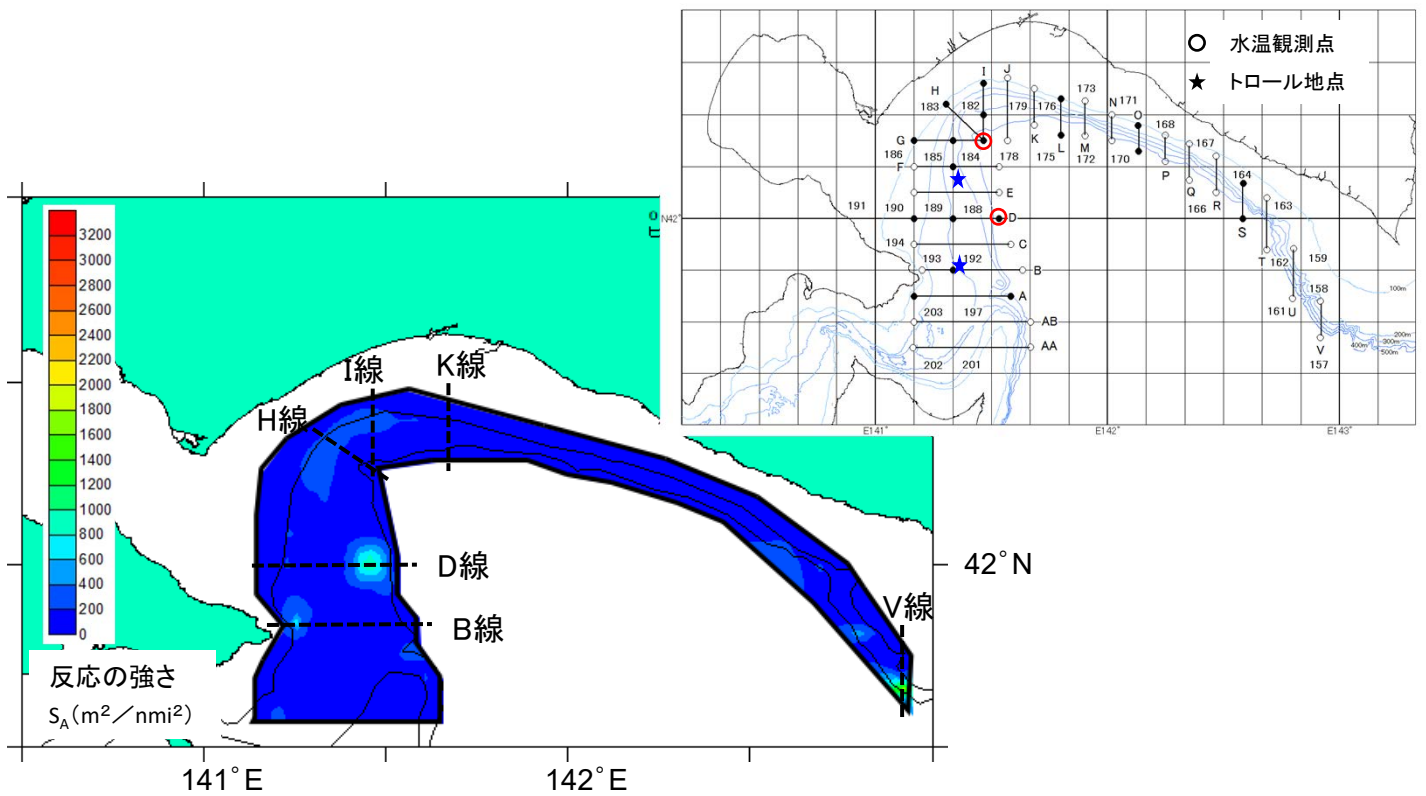


図1 調査海域における魚群の分布(右上図は調査海域図)

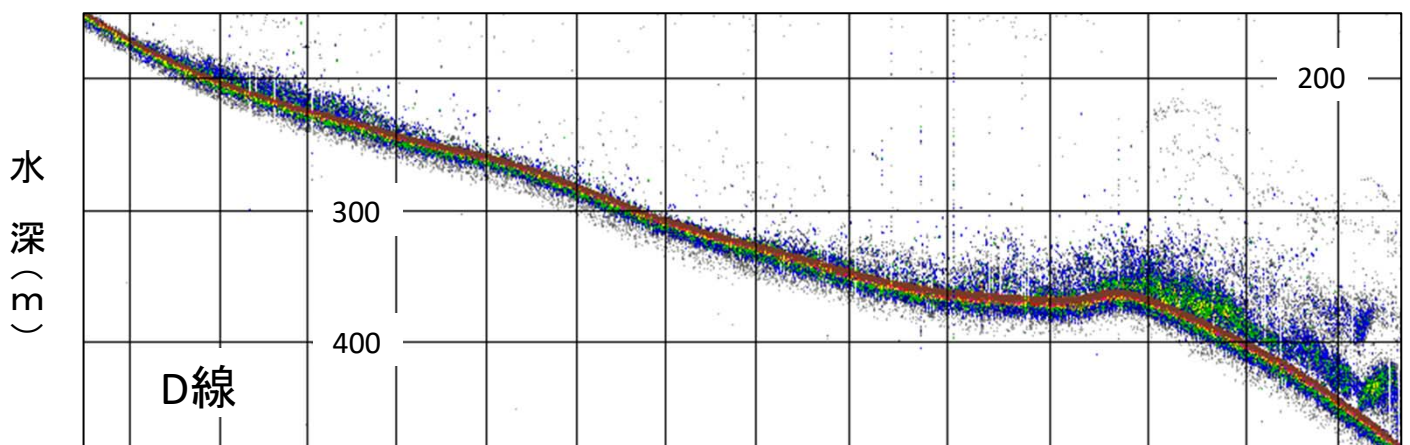
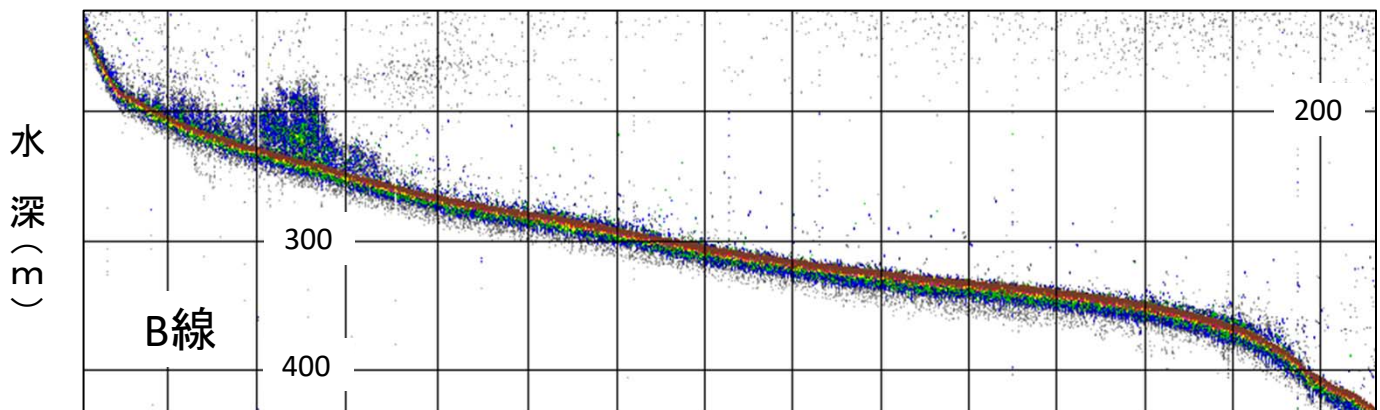


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

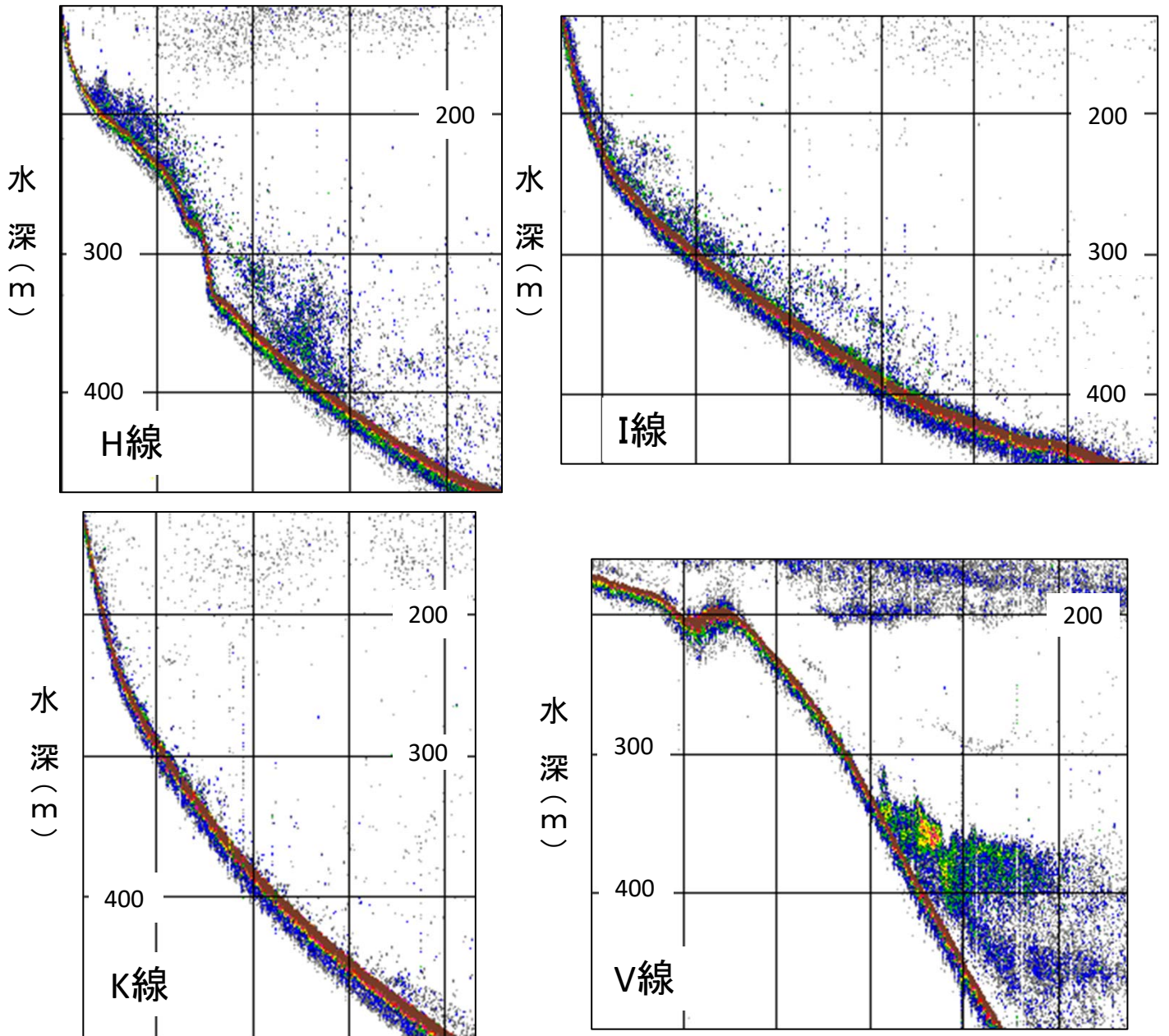


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

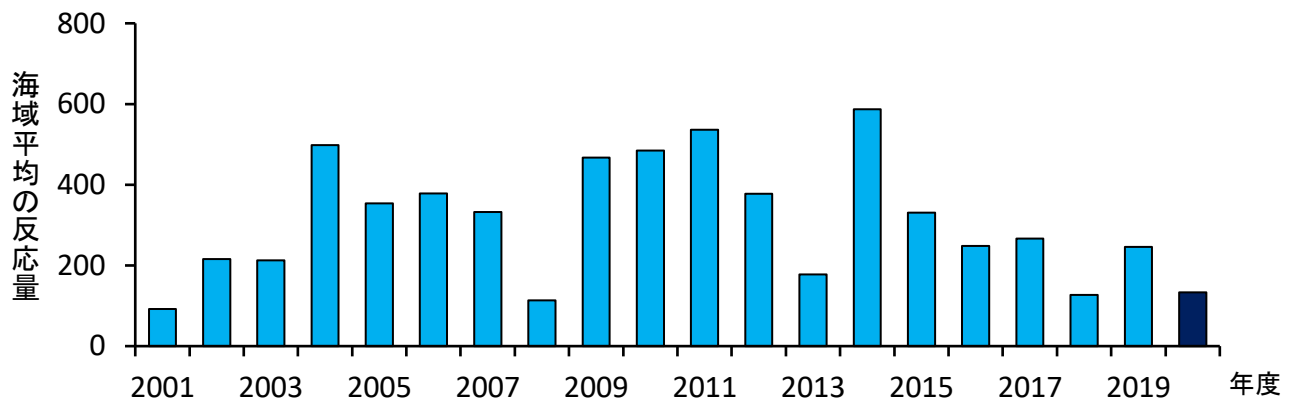


図3 調査海域におけるスケトウダラ魚探反応量の推移

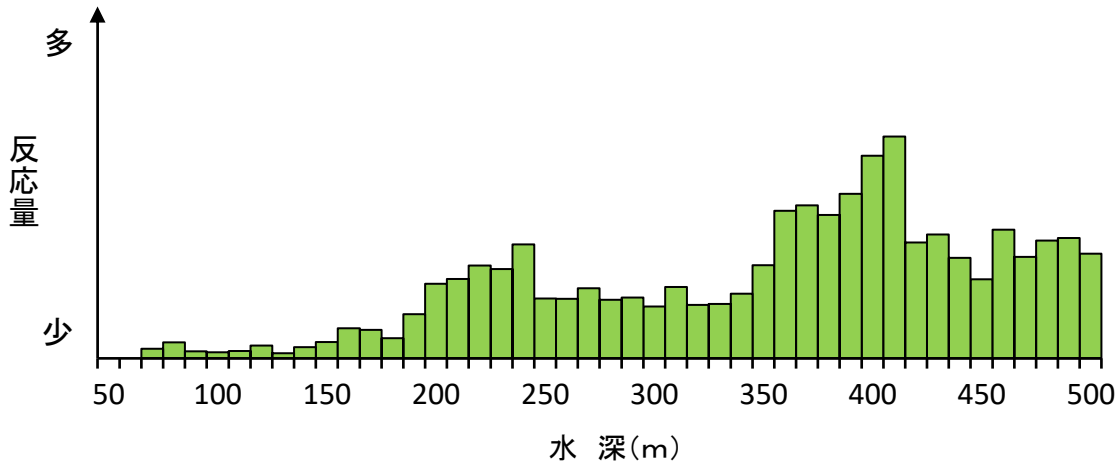


図4 水深別の魚探反応量

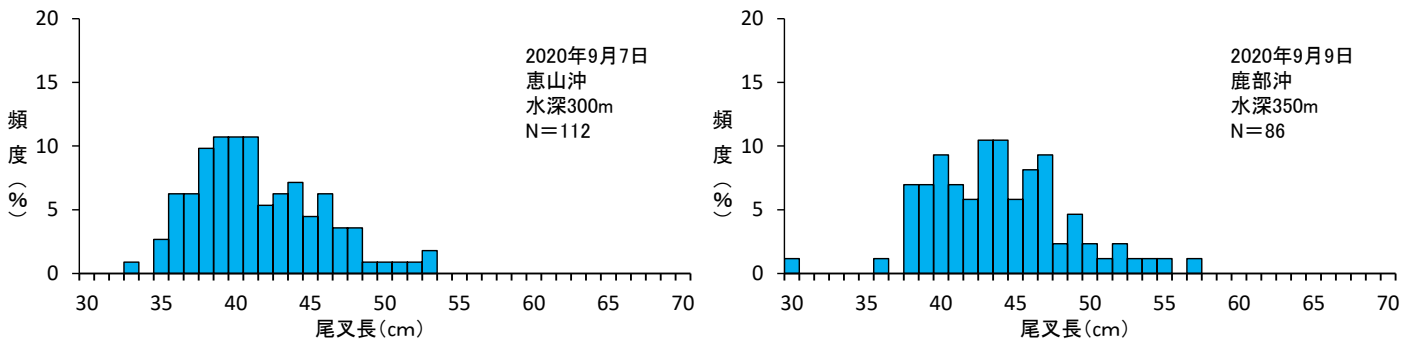


図5 漁獲物の体長組成

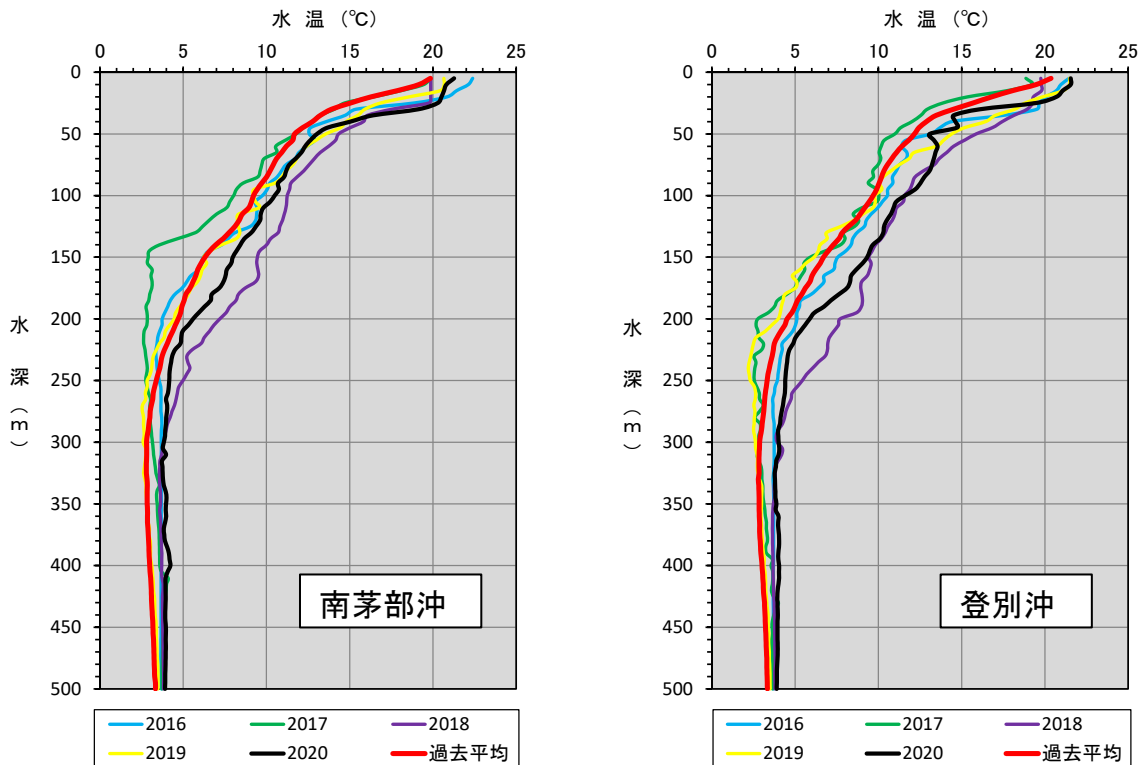


図6 8月下旬における水温の鉛直分布  
 左:南茅部沖(Dライン上), 右:登別沖(Hライン上)  
 (過去平均:本調査における2002~2019年度の各調査点の平均値)